

問1 漁港でとれたばかりの魚が集められ、買い手が値段を決めるために「せり」を行う場所を何といますか。

1. 魚市場 2. 冷凍庫 3. 水族館 4. スーパーマーケット

問2 国や自治体が、魚の量や期間を制限するような「漁獲規制」を行う一番の目的は何ですか。

1. 将来にわたって魚をとり続けるため 2. 魚の値段を高くするため 3. 新しい漁場を発見するため 4. 外国との貿易を活発にするため

問3 農家が「産地直送」でお客さんに商品を届けることで、どのような良いことがありますか。

1. 農家が商品を運ぶ必要がなくなる 2. 市場でのせりを行うことで価格が高くなる 3. 中間にかかる費用をへらして新鮮なものを届けられる 4. 市場を通すよりも時間がかかる

問4 直売所の特徴として、もっとも正しい説明はどれですか。

1. 世界中の珍しい食材が集まる 2. スーパーより鮮度が高いものが多い 3. いつでも必ず同じ野菜が買える 4. スーパーより必ず値段が安い

問5 林業で、木が十分に育ったあとに、それらを切り出して木材にする作業を何といますか。

1. 間伐 2. 枝打ち 3. 伐採 4. 植林

問6 遠洋漁業の生産量が、1970年代から大きく減り続けている主な理由は何ですか。

1. 日本の近くの海に、プランクトンが急に増えたため。 2. 船を動かすための燃料が、世界中で使えなくなったため。 3. 魚を卵から人工的に育てる技術が広まったため。 4. 排他的経済水域の取り決めなどができたため。

問7 漁業資源を守るために、国や自治体が行っている「とれる魚の量や期間を制限する」取り組みのことを何といますか。

1. 漁場の拡大 2. 乱獲の促進 3. 漁獲規制 4. 魚の養殖

問8 ビニールハウスなどの施設とあたたかい気候を利用して、ふつうよりも早い時期に野菜をつくり出荷する栽培方法を何といますか。

1. 抑制栽培 2. 促成栽培 3. 有機栽培 4. 二毛作

問9 群馬県や長野県の高原地域で、夏から秋にかけてキャベツやレタスをたくさん出荷しているのは、なぜですか。

1. 平地では野菜が育たないから 2. 平地よりも一年中気温が高いから 3. 雨がほとんど降らない地域だから 4. すずしい気候を好む野菜を、夏に育てることができるから

問10 「地産地消（ちさんちしょう）」とは、どのようなことですか。

1. 売れ残った農作物を捨てずに保存すること 2. 地元でとれた農産物を、その地域で消費すること 3. 遠くの大都市へ農作物をたくさん送ること 4. 外国から安い農作物をたくさん輸入すること

問11 人工的に育てた稚魚を、ある程度の大きさになるまで守ってから海や川に放し、自然の中で成長させてからとる漁業のことを何といますか。

1. 栽培漁業 2. 遠洋漁業 3. 沖合漁業 4. 養殖漁業

問12 畜産のなかでも、特に乳牛を飼育し、牛乳やバターなどを生産する仕事を何といますか。

1. 促成栽培 2. 酪農 3. 水産業 4. 林業

問13 遠くの海で行う漁業で、1970年代から生産量が大きく減り続けているものはどれですか。

1. 沿岸漁業 2. 沖合漁業 3. 遠洋漁業 4. 養殖業

問14 暖流と寒流がぶつかり、よい漁場となっているところを何といますか。

1. 海溝 2. 干潟 3. 大陸だな 4. 潮目

問15 昔と比べて魚の生産量が減っている中で、養殖漁業がさかんに行われるようになった一番の理由は何ですか。

1. 魚を計画的に育てて、安定してとどけるため 2. 魚を大きく育てるためのえさを海から集めるため 3. 他の漁業よりも働く時間が短くてすむため 4. 海を汚さないため

問16 畜産で生産されるもの（つくられるもの）の組み合わせとして、正しいものはどれですか。

1. 肉や牛乳、卵 2. 魚や貝、わかめ 3. 野菜や果物、米 4. 木材や炭、きのこ

問17 栽培漁業において、わざわざ稚魚を育ててから自然の中へ「放流」するのはなぜですか。

1. 海や川の水をきれいに掃除してもらうため 2. 魚が小さいうちに食べられないようになり、漁業資源を増やすため 3. 魚を人間に慣れさせて、とりやすくするため 4. えさ代を浮かせて、より安く魚を売るため

問18 農家の人々が集まって、農業のやり方を教え合ったり、農作物をまとめて売ったりする組織のことを何といますか。

1. 農業協同組合 2. 農業試験場 3. 農村自治会 4. 農家連合会

答え合わせ・解説 No.1

問1	答え 1 魚市場	漁港でとれた魚を全国の食卓へ届けるための大切な中継地点です。魚市場では、多くの買い手が集まって「せり」という方法で魚の値段を決めるため、漁業の流通にとって欠かせない場所となっています。
問2	答え 1 将来にわたって魚をとり続けるため	一度にたくさんの魚をとってしまうと、魚が十分に育ったり増えたりする前にいなくなってしまう。将来もずっと安定して魚をとれるように、今とる量を調整して、海にいる魚の数を守ることがこの取り組みの大切な理由です。
問3	答え 3 中間にかかる費用をへらして新鮮なものを届けられる	産地直送の大きな特徴は、市場や卸売業者という「中間」のステップを省くことです。これにより、輸送にかかる日数が短くなって新鮮なものが届くだけでなく、中間でかかる余計なコストを抑え、農家にも消費者にも適正な価格で取引ができるようになります。
問4	答え 2 スーパーより鮮度が高いものが多い	直売所は、農家から直接届くため、収穫してからお店に並ぶまでの時間が短く、鮮度が高いことが最大の強みです。ただし、スーパーマーケットのように大量に仕入れて安く売る仕組みとは異なるため、必ずしも値段が一番安いとは限りません。
問5	答え 3 伐採	長い年月をかけて育てた木を、木材として利用するために切る作業のことを伐採といいます。植林は苗木を植えること、枝打ちは節のないきれいな木にするために枝を切り落とすこと、間伐は成長を助けるために木の間引くことを指します。
問6	答え 4 排他的経済水域の取り決めなどができたため。	遠洋漁業は、排他的経済水域の取り決めなどができたことにより、遠くの外で自由に漁ができなくなったため、1970年代から生産量が大きく減り続けています。
問7	答え 3 漁獲規制	将来もずっと魚をとることができるように、とりすぎを防ぐためのルールを設けることを漁獲規制といいます。単に魚をとることを禁止するのではなく、量や期間を計画的に管理することで、魚の数が減るのを助けながら、安定した漁業ができるようにしています。
問8	答え 2 促成栽培	あたたかい気候やビニールハウスを利用して、野菜を早い時期に育てて出荷する方法を促成栽培といいます。
問9	答え 4 すずしい気候を好む野菜を、夏に育てることができるから	平地では夏に気温が高くなりすぎて、レタスなどのすずしい気候を好む野菜はうまく育ちません。そこで、夏でもすずしい高原地域を利用することで、夏の時期に新鮮な野菜を全国へ届けることができます。
問10	答え 2 地元でとれた農産物を、その地域で消費すること	地産地消は、自分たちが住んでいる地域でとれた食べ物を、その地域の中で食べることを指します。輸送する距離が短くなるため、新鮮なものを食べられるだけでなく、運ぶときのエネルギーを減らせるという環境にやさしいメリットもあります。
問11	答え 1 栽培漁業	栽培漁業は、稚魚を放流して自然の海や川で育てる手法です。これに対して「養殖漁業」は、いけすなどの施設の中でえさを与え、完全に人の手で管理して育てるという違いがあります。
問12	答え 2 酪農	畜産のうち、特に乳牛を飼って牛乳やバター、チーズなどの乳製品を生産する仕事を酪農といいます。
問13	答え 3 遠洋漁業	遠くの外で行う漁業を「遠洋漁業」といい、排他的経済水域の取り決めなどによって1970年代から生産量が大きく減り続けています。
問14	答え 4 潮目	あたたかい海流（暖流）と冷たい海流（寒流）がぶつかり、よい漁場となっている場所を「潮目」といいます。
問15	答え 1 魚を計画的に育てて、安定してとどけるため	とる漁業だけでは魚の数が足りなくなってしまうこともあるため、施設を利用して自分たちで計画的に育てることで、いつでも安心して魚を食べられるようにするのが養殖漁業の大切な役割です。
問16	答え 1 肉や牛乳、卵	畜産は、牛やぶた、にわとりなどを飼うことで、肉や牛乳、卵などを生産する仕事です。
問17	答え 2 魚が小さいうちに食べられないように守り、漁業資源を増やすため	稚魚の時期は他の魚に食べられやすく、自然のままでは生き残る数が少ないことがあります。そのため、施設で安全に大きく育ててから放流することで、海や川にいる魚の数を効率よく増やし、安定して漁獲できるようにしています。
問18	答え 1 農業協同組合	農業協同組合（JA）は、農家同士が協力して農業経営を良くしていくための組織です。共同で肥料などの材料を買ったり、育てた作物を販売したりすることで、個人の農家だけでは難しい活動を支え、地域の農業全体を発展させる役割を担っています。